

# RSウイルスが単独または他の呼吸器ウイルスとともに検出された下気道炎小児入院例における臨床像の相違

なり あい あき よし  
成 相 昭 吉

キーワード：RSウイルス細気管支炎，マルチプレックスPCR，呼吸器ウイルス，単独検出，複数検出

## 要 旨

2020年10月から2023年10月までにマルチプレックスPCRでRSウイルス（RSV）が検出された下気道炎小児入院例を対象に，単独検出例とSARS-CoV-2を除く他の呼吸器ウイルスも検出された複数検出例で臨床像の相違を検討した。

1歳未満で呼気性喘鳴を初めて認めた場合を細気管支炎，1歳以上で呼気性喘鳴を認めた場合を気管支喘息急性増悪とし，下気道狭窄のない気管支炎と肺炎は胸部X線写真浸潤像の有無で区別した。

下気道炎280例，検査を実施した201例中83例（41%）からRSVを検出，単独検出48例（58%，平均月齢13か月），複数検出35例（42%，同17か月），単独検出例では細気管支炎が26例（54%），複数検出例では肺炎が13例（37%）で，それぞれもっとも多かった。細気管支炎37例では単独検出26例に比べ複数検出11例の平均月齢が高く（2.2か月 vs 4.3か月， $P<0.05$ ），入院期間も長く（4.1日 vs 5日， $P<0.05$ ），発熱例も多かった（65% vs 82%，有意差なし）。

## はじめに

近年普及してきたマルチプレックスポリメラーゼ連鎖反応（以下，マルチプレックスPCR）な

どの核酸増幅法を用いると，気道感染症小児例の90%以上から呼吸器ウイルスが検出される<sup>1)</sup>。また，1検体から2種類以上のウイルスが検出されることがあり，これをmultiple respiratory virus detection（以下，MRVD）と呼称する<sup>1)</sup>。

MRVDの場合，ウイルス抑制因子であるインターフェロン（以下，IFN）により異種ウイルス同士は互いに“干渉”し，1つの呼吸器ウイルス感染が他の呼吸器ウイルス感染を阻害するため，

Akiyoshi NARIAI

安来市医師会診療所

松江赤十字病院感染症科

松江赤十字病院小児科

連絡先：〒692-0206 安来市伯太町安田1700番地

安来市医師会診療所